

蕾 - つぼみ -



2021.4.8

◆進級・入学おめでとうございます◆

校庭の桜もすっかり色づき、春という季節の訪れに胸が躍ります。まさに「出会いの季節」です。在校生の皆さん、進級おめでとうございます。新入生のみなさん、イチカシへようこそ。多くの先輩方が青春を謳歌し、巣立っていったこの学び舎で、みなさんのご活躍を心から期待しています。さて人生には「節目」というものが何度も訪れます。「節目」とは物事の区切りや転機を表す言葉であり、学年が変わる新学期も、一つの「節目」といえるでしょう。昨日までの自分を振り返ると、反省や後悔もあるかもしれません。しかし、「節目」は昨日までの自分をリセットする絶好のチャンスです。まずは、目の前のことに最善を尽くすことから始めてみましょう。ちなみに、今回進路室通信のタイトルを「蕾 - つぼみ -」にしました。「蕾」とは、まだ開いていない状態の花のことですが、高校生といういわば「蕾」の時期に、たくさんの可能性を伸ばしてほしい、そして、いつか立派な花を咲かせてほしい、という願いを込めてつけたタイトルです。進路指導部としても、君たちの夢の実現に向け、全力でサポートしていきます。どうぞよろしくお祈りします。

◆進路を考える◆

皆さんは、「進路」と聞くとどんなイメージを思い浮かべますか。学校選びや就職先選びを想像する人も多いのではないのでしょうか。高校生は、卒業すると様々な道に進みます。大多数が高校に進学する中学校とは違い、選択肢は無数にあります。だからこそ、思い悩む人も少なくないのでしょうか。ただ、悩むことは自分と向き合う貴重な時間であり、大人になるための大切なステップなのです。もし、自分の進むべき道に迷ったら、「自分はどのような生き方をしたいのか」ということを軸に考えてみることをお勧めします。具体的には、「10年度、20年後にどんな大人になりたいのか、どのように社会に貢献していきたいのか」を想像してみてください。そして、それらを達成するためにはどのようなルートが適しているのかを考えてみてください。つまり、なりたい自分から逆算して進路を考えるということなのです。心理学者のアドラーは「人間は、共同体に貢献していると感じられるときに、自分に価値があると思える」と述べています。イチカシ生には、行ける学校（就職先）ではなく、自己実現のために行きたい学校（就職先）を選びをしてもらいたいと切に願います。ちなみに、進路室には沢山の本や資料があります。ぜひ足を運んでみてください。

◆41期生（卒業生）の活躍◆

今年の3月に卒業した41期生の進路状況は、以下の通りです。

大学：153名、短大：15名、専門学校：110名、就職・公務員：31名、その他：5名

コロナや大学入試改革等で混乱もありましたが、最後まで本当によく頑張りました。GMARCH と呼ばれる難関大学や、県庁・県警などの公務員試験にも合格者が複数であるなど、高いレベルにチャレンジし、合格を掴みとった先輩が多くいました。これらの先輩に共通することは、①部活や行事にも熱心に取り組んでいたこと、②人よりも準備が早かったこと、③絶対に合格するという熱意が強かったこと、の主に3つです。特に、部活動で培った精神力や粘り強さは、受験勉強や就職活動に大いに生きてきます。このイチカシの伝統を、ぜひ引き継いでいってください。

「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる」(本田宗一郎 自動車会社ホンダの創業者)